

兵庫県明石市のヌートリア

大澤 輝¹・○中村有加里¹・深瀬 徹¹・松尾葉月²・松尾史朗^{2,3}

岡城誠治⁴・飯塚岳也⁴・田尾真一⁴

(1 岡山理科大学獣医学部 2 松尾動物病院 3 兵庫県猟友会 4 明石市役所)

ヌートリアは、南米が原産の齧歯類の一種であるが、北米やヨーロッパ、アジアにも分布を広げ、日本でも西日本に多くの個体が生息している。ヌートリアは水辺で生活し、野菜への食害のほか、巣穴を作る際に河川の堤防などに損傷を与えることがある。また、絶滅危惧種に指定されているベッコウトンボの生息地を壊滅させるともいわれ、生態系への影響も無視できないとされている。こうしたことから、ヌートリアは、日本では、2005年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」に定める「特定外来生物」に指定されている。本研究では、兵庫県明石市の行政データにもとづいて2009年度から2023年度のヌートリアの捕獲数を月別に集計し、解析を試みた。

*

明石市におけるヌートリアの捕獲個体数は、2009年度には37個体であったが、翌2010年度には8個体に減少し、その後、2020年度までは3~20個体であった。しかし、2021年度には67個体、2022年度には115個体、2023年度には89個体と増加している。捕獲個体数が多い2021~2023年度の3年間について、月別のヌートリアの捕獲個体数を比較したところ、6月から8月と11月から2月に捕獲個体数が多いことが確認された。

*

明石市におけるヌートリアの捕獲個体数は、2020年度までは比較的少なかったが、2021年度以降に急激に増加している。その理由は明らかではないが、日本においてはヌートリアを捕食する大型の鳥獣類が少なく、また、明石市では水や植物が豊富なことから、生息するヌートリアの個体数が増加したことが考えられる。さらに、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service; SNS) を含めたインターネットの普及にともなう社会構造の変化によって、ウェブ上で容易にヌートリアという動物のことを検索できるようになり、自身が受けている被害がヌートリアによるものであることを認識した市民ないしは農業従事者から行政へのヌートリア捕獲要請が増していることも背景にあろう。

なお、ヌートリアの捕獲個体数は、明石市においては、夏期と冬期の2つのピークをもって増減を繰り返している傾向がみられた。この時期に捕獲個体数が増す理由については、夏期は、田植え後の稲の新芽や畑の葉物野菜の採食による被害が目立ち、農業従事者からの捕獲要請が多くなっていることがあげられる。また、秋期から冬期には、ヌートリアがその姿を隠すような雑草が枯れることや、ため池の維持管理のために管理者が水位を下げることによって、市民がヌートリアの姿を目撃する機会が増え、捕獲要請につながっていることが考えられる。